Titleポスト震災期におけるソーシャルセクターの連続性と非連続性Sub TitleContinuity and discontinuity of social sector after the great Hanshin-Awaji earthquake periodAuthor宮垣,元(Myagaki, Gen)Publisher慶應義塾大学Publication year2020Jittle学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)JaLC DOIAbstractAbstract卒研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたいどの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討についは、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの題勢が、この間の制度化や化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットアの視点から分析を行った。こからは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれ6 互に対し作用し合うことである種のジレンマをよじさせている可能性も見出された。次年度では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after 1 disaster period.This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiv conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO especially in the field of community-based welfare and community development, have been	
Author宮垣,元(Miyagaki, Gen)Publisher慶應義塾大学Publication year2020Jittle学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)JaLC DOIAbstractAbstract本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ 	
Publisher         慶應義塾大学           Publication year         2020           Jittle         学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)           JaLC DOI         Abstract           本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである種のジレンマを生じさせている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めで行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japz Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectin conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rele preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO	
Publication year2020Jitile学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)JaLC DOIAbstractAbstract本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査のの知らが、 ういては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである確のジレンマを比させている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity before and after th disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiv conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO 	
Jtitle         学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)           JaLC DOI         Abstract         本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN. どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワーグのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである種のジレンマを生じさせている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after 1 disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiv conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO	
JaLC DOIAbstract本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである種のジレンマを生じさせている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after 1 disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiva conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO	
Abstract         本研究は、阪神・淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)を契機に変容してきたN どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである種のジレンマを生じさせている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which I been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after f disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiv conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO	
どの市民社会組織が、その後の過程でどのような特性を有するに至ったかについて、とくに 期の前後における連続性と非連続性という観点から明らかにしようとするものである。 本年度は、こうした目的に沿った理論分析枠組みの構築と、これまでに行ってきた調査の二 析、そして関連する事前調査および調査実施に向けた準備を行った。まず、理論的検討につ は、とりわけ地域福祉分野やまちづくり分野を中心とするNPOの趨勢が、この間の制度化や 化の流れの中でどのような影響を受けてきたのかについて、その環境(制度・政策)変化と 変容の関係について検討を行った、これについては、過去の調査結果も振り返りながら、書 してもまとめるとともに、学術論文を準備中である。また、これまで実施した調査の二次分 ついては、兵庫および神奈川県で実施した科研費調査の結果も用いながら、組織とネットワ の視点から分析を行った。これらは複数の学術論文として公刊されている。以上のことから 織と外部環境の相互作用や組織間ネットワークのメゾレベルと、組織関わる人々の(非公式 パーソナルネットワークのミクロレベルそれぞれについての整理はできたが、同時にこれら 互に対し作用し合うことである種のジレンマを生じさせている可能性も見出された。次年度 では、こうした観点から理論および実証を進めて行くことを考えている。 This study focuses on the characteristics of civil society organizations such as NPOs, which f been transformed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake (1995) and the Great East Japa Earthquake (2011). It seeks to study in terms of continuity and discontinuity before and after t disaster period. This fiscal year, the study established a theoretical analysis framework to meet these objectiv conducted a secondary analysis of the surveys we have conducted, and prepared for the rela preliminary surveys. First, as for theoretical examination, it discussed how the trends of NPO	
affected in the course of institutionalization and commercialization during this period. It exami the relationship between policy and organizational change. Regarding this, with rethinking par research results, the author compiled a book, and am preparing an academic paper. Regarding secondary analysis of the surveys conducted so far, the analysis was conducted from the viewpoints of organizations and networks, using the results of KAKENHI surveys conducted i Hyogo and Kanagawa Prefecture. These have been published as several academic papers. I the above, it was possible to consider the interaction between the organization and the extern environment, the mezzo-level of the inter-organizational network, and the micro-level of the (informal) personal network of the people involved in the organization. It has also been found conflicting between these networks may create some kind of dilemma. From the next fiscal ye onward, I plan to proceed with theoretical research and survey from this perspective.	震 欠い事祖磨折一、なが头 anne ester, neting infra th災 分て業織とにク組)相降 e ,d the mine tat
Notes	
Genre Research Paper	
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190	33

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2019 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	総合政策学部 宮垣 元	職名	教授	ter ut was		<b>7</b> B
	氏名		氏名(英語	) Gen Miyagaki	──補助額	300 (A)	十円
		研	<b>究課題</b> (日2	語)			
ポスト震災期に	おけるソーシャ	ッルセクターの連続性と非連続 <sup>、</sup>	性				
		矽	肝究課題(英	訳)			
Continuity and	Discontinuity c	of Social Sector after the great	t Hanshin-Av	aji Earthquake period			
		1. 石	研究成果実績	の概要			
でどのような特 のである。 本年度は、こうし 査町の間の計たの間検討を行っ た、これまで実 りの視点から分	性を有するに当 した目的に沿っ ニ準備を行った や事業化の流 た、これについ 施した調査のこ 析を行った。こ	(1995年)や東日本大震災(20 とったかについて、とくに震災其 かた理論分析枠組みの構築と、 。まず、理論的検討については れの中でどのような影響を受け いては、過去の調査結果も振り 二次分析については、兵庫およ にわらは複数の学術論文として	期の前後にお これまでに行 た、とりわけ地 けてきたのか り返りながら、 こび神奈川県 公刊されてい	ける連続性と非連続性という ってきた調査の二次分析、そし 域福祉分野やまちづくり分野を こついて、その環境(制度・政策 書籍としてもまとめるとともに で実施した科研費調査の結果 る。以上のことから、組織と外	<ul> <li>現点から明らかに</li> <li>こて関連する事前</li> <li>を中心とする NP(</li> <li>(変化と組織変)</li> <li>(学術論文を準)</li> <li>も用いながら、組</li> <li>部環境の相互作</li> </ul>	こしようとする う調査および つの趨勢がに に 備中である。 総とネットワ に 開や組織 に に わいた に の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の に に の に に の に の に の に に の に に の に に で の の 関 係 に に に に の の 関 係 に に に の に に っ で の の 関 係 に に に に っ で あ っ っ い に ら っ い っ い っ で あ っ の で い ら っ い に っ い に い っ で あ っ い ら い に い っ い っ い ら い に っ い ら い い ら に い こ っ い っ い ら い い ら い い ら い ら に い い い に い い い い い い い い い い い い い	る ぶ、こ。フ引き いっぽう いち いっぽう いちょう いちょう いちょう しんしょう アリストレント しんしょう ひょう ひょう しんしょう しんしょう しんしょう しんしょう ひょう ひょう ひょう しんしょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひょう ひ
同時にこれらが	相互に対し作	歳関わる人々の(非公式な)パ・ 用し合うことである種のジレン・ くことを考えている。					
		2.研究	成果実績の構	<b>狂要(英訳)</b>			
Hanshin-Awaji discontinuity be This fiscal year the surveys we how the trends course of instit change. Regard Regarding the s and networks, u several academ environment, the involved in the	Earthquake (1 fore and after , the study est have conduct of NPOs, esp utionalization a ing this, with secondary anal using the resul ic papers. Fro e mezzo-level organization. Is	aracteristics of civil society or 995) and the Great East Ja the disaster period. tablished a theoretical analysis ed, and prepared for the relat ecially in the field of communi and commercialization during t rethinking past research resu ysis of the surveys conducted to of KAKENHI surveys conducted on the above, it was possible of the inter-organizational net t has also been found that complan to proceed with theoretic	apan Earthques s framework ted prelimina ity-based we this period. It ults, the auth d so far, the ucted in Hyo to consider twork, and th nflicting betw	ake (2011). It seeks to stud to meet these objectives, com- y surveys. First, as for theory fare and community developm examined the relationship bet for compiled a book, and am analysis was conducted from go and Kanagawa Prefecture. the interaction between the e micro-level of the (informal) een these networks may crea	ly in terms of ducted a second etical examination tent, have been tween policy and preparing an act the viewpoints of These have been organization an personal network te some kind of	continuity lary analysis in, it discus affected in l organization cademic pap f organization published id the extent k of the peop	and s of sed the onal per. ions d as rnal ople
	ear onwaru, I	· · ·	ar research a 研究課題に関		с.		
 発表者 (著者・	 「氏名 講演者)	3.24 発表課題名 (著書名・演題)		9 の元叔 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌 (著書発行年)	発行年月 月・講演年	月)
宮垣元		『その後のボランティア元年: 25 年の検証』			2020年1月		///
猿渡 壮·鈴木 約	吨·宮垣 元	「民間非営利組織におけるネ ーク構造と協働:兵庫県 NPC 調査に基づく実証分析」		·経済雑誌』219 巻 5 号: 21−34	2019 年 5 月		
宮垣 元		「市民福祉の制度化を振り返	る」『福礼	社会学研究』16: 75-79	2019 年 6 月		_
鈴木 純•宮垣 : 猿渡 壮•西岡明		「NPO 法 20 年目における 組織の構造と動態: ネットワー 視点から」		₩社会学会年報』41:46-56	2019 年 9 月		